

自治体・団体名	北海道安平町
活動概要	<p>北海道安平町（人口約7千人）は、北海道の道央圏に位置する自然あふれる地域です。2006年3月、旧早来町と旧追分町の新設合併によって誕生した当町は、2007年3月に策定した安平町総合計画（第1次）に基づき、まちづくりの将来像である『くらしの笑顔が広がるぬくもりと活力と躍動のまち』を実現するため、これまで様々な政策・施策に取り組んできました。</p> <p>町内での有機農業は、1991年に新規就農で有機農業を始めた方を皮切りに着実に存在感を増し、2013年には北海道の支援を受けて学校給食への有機農産物の提供をスタートさせています。2017年には改めて有機農業での新規就農に関する研修制度を整え、現在に至っています。</p>
HP等	<a href="https://www.town.abira.lg.jp/">https://www.town.abira.lg.jp/</a>

自治体・団体名	茨城県常陸大宮市
活動概要	<p>茨城県常陸大宮市は、人口約3万8千人、耕地面積は、3,510ha（田1,660ha 畑1,850ha）、主要作物は、水稲、なす、ねぎ、切り枝、近年は甘藷やいちごの生産も増加しています。</p> <p>本市では、「子ども達に最高の給食を届けたい」という思いから、学校給食オーガニック化を目指して有機農業を推進しており、JA常陸の協力のもと有機農産物の生産に力を入れ、令和5年度は米・野菜ともに学校給食へ導入しました。</p> <p>今後、生産者と消費者それぞれの理解と連携を深めつつ、有機農産物の生産から消費までを地域全体で推進する取り組みを全力で展開することを誓い、令和5年11月にオーガニックビレッジ宣言をしました。</p>
HP等	市公式HP <a href="https://www.city.hitachiomiya.lg.jp/">https://www.city.hitachiomiya.lg.jp/</a> 農林振興課インスタグラム <a href="https://www.instagram.com/nourin.hitachiomiya">nourin.hitachiomiya</a>

自治体・団体名	茨城県かすみがうら市
活動概要	<p>茨城県かすみがうら市（人口約4万人）は、茨城県南部のほぼ中央に位置し、我が国第2位の面積を誇る湖「霞ヶ浦」と筑波山系南麓にはさまれ、年間を通じて穏やかな気候で自然災害が比較的少ない地域です。</p> <p>令和5年5月にゼロカーボンシティ宣言を行い、環境に配慮した有機農業の取組を促進するとともに、市内小中義務教育学校の給食へ環境教育及び食育の視点から有機農産物を提供することにしました。</p> <p>また12月末には、未来を担う子どもたちの食と環境を守り、持続可能な農業の発展を図る目的で「オーガニック推進協議会」を設立し、市民、行政、関係機関が一体となって、環境と調和した未来に繋がる農業を目指します。</p>
HP等	<a href="https://www.city.kasumigaura.lg.jp/page/dir017172.html">https://www.city.kasumigaura.lg.jp/page/dir017172.html</a>

自治体・団体名	茨城県笠間市
活動概要	<p>茨城県笠間市(人口約7万2千人)は、茨城県の中央部に位置し、首都圏から約100キロメートルで、概ね平坦な台地が広がり、気候は、夏は気温も湿度も高く、冬は乾燥した晴天の日が多い、太平洋型の気候となっており、農作物の栽培も盛んです。特に、茨城県は、栽培面積・収穫量ともに全国1位を誇る栗の産地です。中でも笠間市は、日本一の栽培面積と経営体数を誇り、温暖な気候や保水性・通気性に優れた火山灰土壌から美味しく薫り高い栗を育てており、栗を使用した、栗ご飯や栗(くり)いむシチューなどを学校給食で提供しております。</p>
HP等	<a href="https://www.city.kasama.lg.jp/">https://www.city.kasama.lg.jp/</a>

自治体・団体名	栃木県小山市
活動概要	<p>小山市は、栃木県の南部、都市と農村環境の調和するコウノトリに選ばれた田園環境都市です。2021年に小山市有機農業推進協議会を設立し、生産者から消費者まで一体となって、人・いのちを大事にする有機農業を推進しています。</p> <p>有機農業機械の導入や有機稲作の技術指導、学校給食での有機農産物等の活用、オーガニックアンテナショップハレタラの設置や、オーガニック講座を実施しています。市内で生産された有機米は学校給食用米飯に使用しており、令和5年度は約11トンの有機米を学校給食に使用しました。</p>
HP等	<a href="https://www.city.oyama.tochigi.jp/sangyou-sigoto/sangyosinko/nougyou/page001793.html">https://www.city.oyama.tochigi.jp/sangyou-sigoto/sangyosinko/nougyou/page001793.html</a>

自治体・団体名	埼玉県秩父市
活動概要	<p>秩父市は、埼玉県の北西部にあり、面積は<b>577.83</b>平方キロメートルで、埼玉県全体の約<b>15%</b>を占めています。市域の<b>87%</b>は森林で、その面積は埼玉県の森林の約<b>40%</b>を占めています。ほとんどは国立・県立の自然公園区域に指定されており、自然環境に恵まれた地域です。</p> <p><b>2022</b>年から有機農業の実証実験に取り組んでおり、<b>2023</b>年には収穫した農産物を学校給食へ提供することが出来ました。今後も食育の観点から、地産地消と併せて有機農業の推進を図り、より多くの食材を学校給食へ提供できる体制づくりを進めて参ります。</p>
HP等	<a href="https://city.chichibu.lg.jp/">https://city.chichibu.lg.jp/</a>

自治体・団体名	埼玉県所沢市
活動概要	<p>埼玉県所沢市（人口約34万人）は、都心から30km圏内の埼玉県南西部に位置しています。都市近郊という立地条件を活かし、特産品である狭山茶や里芋、人参、ほうれん草などは県内有数の生産量を誇っています。令和5年7月には、平地林から落ち葉を集めて堆肥化する「武蔵野の落ち葉堆肥農法」が世界農業遺産に認定されるなど、環境にやさしい農業が営まれています。市独自の補助事業として環境負荷低減に寄与する資材等の導入費用の一部助成も行っています。また、市内有機農家からなる「所沢有機農業推進グループ」を中心に、学校給食への農産物の導入を進めています。令和4年度には人参を試験導入し、今後さらに品目を増やしていく予定です。</p>
HP等	<a href="https://www.city.tokorozawa.saitama.jp">https://www.city.tokorozawa.saitama.jp</a>

自治体・団体名	千葉県木更津市
活動概要	<p>木更津市（人口約<b>13万6千人</b>）は、南房総・東京湾岸に位置する豊かな自然環境に恵まれた「都心に一番近い田舎」です。令和元年に木更津市有機農業推進協議会を設立し、市内公立小・中学校の学校給食に無農薬・無化学肥料で生産されたお米「きさらづ学校給食米」（コシヒカリ）を提供する「有機米プロジェクト」を立上げ、生産者や関係機関の協力を得て、令和4年度産で学校給食提供率<b>64.1%</b>（86日／134日）となり、100%（約<b>125トン</b>）達成に向けた生産者の支援を中心に、6次化産業を推進し「きさらづ学校給食米」のブランド化を目指しています。今後、学校給食全量提供達成後を見据え、他自治体の学校給食に提供できるよう出口戦略を進めます。</p>
HP等	<a href="http://www.city.kisarazu.lg.jp">http://www.city.kisarazu.lg.jp</a>

自治体・団体名	千葉県いすみ市
活動概要	<p>千葉県いすみ市(人口約3万6千人)は、千葉県の南東部に位置する里山、里海の自然豊かな地域です。2012年に協議会を設立し、市民、行政、関係機関が一体となって、環境と経済の両立をすすめています。稲作や野菜作りでの有機栽培や、学校給食や保育所・こども園給食での有機農産物の活用、環境に配慮した農産物のブランド化、都市農村交流、食農環境教育等をまちぐるみで推進しています。</p> <p>市内で生産された有機米「いすみっこ」は学校給食用米飯に100%採用しています。農薬・化学肥料不使用で生産された野菜を「いすみそだち」として認証し、学校給食に5トン、保育所・こども園給食に2.5トン使用しています。</p>
HP等	<a href="https://www.city.isumi.lg.jp/">https://www.city.isumi.lg.jp/</a>

自治体・団体名	長野県飯田市
活動概要	<p>飯田市（人口約9万6千人）は長野県の南部、中央アルプスと南アルプスに囲まれ、天竜川に沿って南北に広がる自然豊かな伊那谷に位置しています。</p> <p>地産地消や地域内の未利用資源の活用など地域循環型農業の推進に力を入れており、学校給食に関しても有機農産物や環境に配慮した農産物を積極的に活用するべく検討しています。また市独自の環境に配慮した農産物地域相互認証制度を創設し認証された農産物を学校給食へ優先的に納入していく予定です。</p>
HP等	<a href="https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/22/zyunkan.html">https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/22/zyunkan.html</a>

自治体・団体名	長野県松川町
活動概要	<p>松川町は長野県の南部伊那谷に位置し、中央アルプスと南アルプスに挟まれた地域です。遊休農地対策として、身土不二の考えのもと、1人1坪農園の推進を行う中、2020年に「ゆうきの里を育てよう連絡協議会」を設立。栽培研修会を行い、農産物を学校給食へ届けようと「ゆうき給食とどけ隊」も発足。お米、にんじん、じゃがいも、玉ねぎ、長ネギの主要5品目を給食の食材として、町内の小学校2校、中学校1校、約1000食の学校給食に初年度は1.8トン、3年目の2022年度は6.4トンを提供。2023年には栄養士・調理師が参加する「ゆうき給食づくり隊」が発足。生産者・作る人・食べる人の距離を近くし、育土・食育を大切に地域の中での広がりを育てています。</p>
HP等	<a href="https://www.town.matsukawa.lg.jp/index.html">https://www.town.matsukawa.lg.jp/index.html</a>

自治体・団体名	長野県飯綱町
活動概要	<p>長野県飯綱町は、長野県の北部、県庁所在地長野市の北側に隣接している人口約1万人の小さな町です。気温の年較差と日較差が激しく降水量の少ない内陸性気候のため果樹主にりんごの栽培が盛んな地域です。</p> <p>2023年度より本格的に有機農業産地づくりに取り組み始めたばかりの駆け出しの地域ですが、学校給食での米・野菜の安定的な供給を目標に先進的な取組をされている自治体皆さまを勉強させていただきながら邁進していきたいです。</p>
HP等	<a href="https://www.town.iizuna.nagano.jp/">https://www.town.iizuna.nagano.jp/</a>

自治体・団体名	静岡県磐田市
活動概要	<p>静岡県磐田市(人口約<b>16</b>万人)は、静岡県の西部に位置し、都市部と農村部が均衡ある発展を遂げている地域です。南北に長く、<b>1</b>年を通じて温暖な気候で、野の幸、山の幸、海の幸に恵まれており、温室メロンや茶、白ねぎ、海老芋、中国野菜、シラスなど、多種にわたる品目が生産されています。</p> <p>市内には、共同調理場が<b>4</b>ヶ所、単独調理場が<b>15</b>ヶ所あり、市内全体で年間約<b>283</b>万食を提供しています。</p> <p>現在は、新規就農者等と調理場のマッチング、需給バランスの調査など学校給食の地産地消を推進しています。</p> <p>将来的には、地域の有機農産物の学校給食使用を含め、取り組みの実施を検討しています。</p>
HP等	<a href="https://www.city.iwata.shizuoka.jp/">https://www.city.iwata.shizuoka.jp/</a>

自治体・団体名	愛知県大府市
活動概要	<p>愛知県大府市(人口約9万2千人)は、知多半島の付け根にある名古屋に隣接する地域で、消費地に近いという立地条件を活かし、果樹や露地野菜、水稻、畜産など多様な都市近郊農業が営まれています。令和3年1月にゼロカーボンシティを宣言した本市では、農業分野での環境負荷の低減など持続可能な農業を実現するため、有機農業を推進しています。農薬・化学肥料を使用せずに栽培した野菜やお米を「おおぶニツク」の愛称で、市内の保育園や学校給食への提供に取り組んでおり、今後も拡大を目指しています。担い手育成講座(野菜)の実施や、慣行農家の一部転換(米)の働きかけなどにより、有機農業者を増やす活動にも力を入れています。</p>
HP等	<a href="https://www.city.obu.aichi.jp/">https://www.city.obu.aichi.jp/</a>

自治体・団体名	愛知県東郷町
活動概要	<p>愛知県愛知郡東郷町（人口約4万4千人）は名古屋市と豊田市の間位置し、都市近郊のベッドタウンとして発展してきました。一方で、尾張地域と三河地域の間を流れる境川周辺に位置することから、多くの水田や農地が残っており、治水など防災上の機能や美しい緑の景観の創出など重要な役割を担っています。</p> <p>本町では、高付加価値の有機農業を推進し農業所得の向上を図り、農業者を増やし農地を守ることで美しい緑と潤いある子育て環境を次世代へ引き継ぐ取り組みを行っています。</p> <p>令和元年度から「オーガニック給食」の実現に向け、町内産有機米と有機野菜の導入拡大を図りつつ、町内産有機農産物のブランド化に取り組んでいます。</p>
HP等	<a href="https://www.town.aichi-togo.lg.jp/">https://www.town.aichi-togo.lg.jp/</a>

自治体・団体名	京都府亀岡市
活動概要	<p>京都府亀岡市（人口約8万7千人）は、京都市の西隣に位置し、古くから穀倉地帯として都に食材を提供し、現在も京野菜の主要産地として知られています。</p> <p>亀岡市はプラスチック製レジ袋の提供禁止を国内で初めて実施するなど「世界に誇れる環境先進都市」を目指した取り組みを進めています。その一環として農業分野の環境負荷低減を図るため、有機農業を推進しています。</p> <p>主な内容は給食への有機農産物の導入拡大、有機農業学校の開設、拠点となる公園の整備などです。学校給食への導入はお米からスタートし、令和2年度まで0%だった有機米の割合は令和5年度に13%強、令和6年度には40%を上回る予定です。</p>
HP等	<a href="https://www.city.kameoka.kyoto.jp/">https://www.city.kameoka.kyoto.jp/</a>

自治体・団体名	大阪府泉佐野市
活動概要	<p>大阪府泉佐野市（人口約9万9千人）は、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、背後に一部が金剛生駒紀泉国定公園に指定された和泉山脈を擁し、美しい山河、緑あふれる恵まれた自然環境にあります。商・工・農・漁業がそれぞれバランスよく栄えてきましたが、関西国際空港の開港などに伴う人口の増加とともに、商業・サービス業が盛んになっています。学校給食用米飯（小中学校計約71t）は地場産品を100%使用し、令和6年度からは特別栽培の地場産品の米を使用する予定となっています。オーガニック給食について現在検討中です。</p>
HP等	泉佐野市ホームページ <a href="https://www.city.izumisano.lg.jp/">https://www.city.izumisano.lg.jp/</a>

自治体・団体名	兵庫県豊岡市
活動概要	<p>兵庫県豊岡市（人口約7万7千人）は、兵庫県の北東部に位置し、東京23区に相当する約700km<sup>2</sup>の市域は県下最大です。</p> <p>1971年に絶滅した野生コウノトリ最後の生息地で、絶滅前から人工繁殖に取り組み、2005年にはコウノトリの野外放鳥を実現させ、現在、約400羽が日本各地の空を翔けています。</p> <p>野生復帰と同時に、田んぼをコウノトリの餌場とするため、おいしいお米と生きものを育む「コウノトリ育む農法」を推進し、市内の約500haの水田で取り組まれるまでに拡大しました。</p> <p>学校給食にも全量、減農薬のコウノトリ育むお米が使用されていますが、2023年4月にオーガニックビレッジ宣言し、2027年度を目標に、無農薬米へ全量転換を目指しています。</p>
HP等	<a href="https://www.city.toyooka.lg.jp/">https://www.city.toyooka.lg.jp/</a>

自治体・団体名	鳥取県日南町
活動概要	<p>人口最少県の鳥取県において、一番高齢化率の高い町。中山間地域のモデルを創るまちづくりを理念に、基幹産業である農林業を基軸としたSDGsのまちづくりを実践しています。</p> <p>みどりの食料システム戦略に基づくオーガニックビレッジ（有機の産地づくり）に取り組み、有機米<b>100%</b>・日南町版オーガニック給食（通称：つながる給食）への取り組みを推進しています。</p>
HP等	<a href="https://www.town.nichinan.lg.jp/index.html">https://www.town.nichinan.lg.jp/index.html</a>

自治体・団体名	熊本県山都町
活動概要	<p>熊本県山都町（人口約1万3千人）は、九州の中心に位置し、豊かな自然、中山間地の気候、清らかな水、ミネラル豊富な土壌を活かした夏秋野菜の生産が盛んな地域です。</p> <p>50年以上前から有機農業に取り組み、有機JAS認証事業者数全国最多の「有機農業No.1のまち」です。SDGs未来都市に選定され、有機農業を中心とした持続可能なまちづくりを行っています。小中学校の給食では地元の有機野菜、有機JAS米が使用されています。山都町有機農業協議会では、子どもの農作業体験、小中学校への無農薬米贈呈、栄養教諭との会議等の活動をしています。今まで守られてきた美しい自然環境を次世代に繋いでいくため、今後も環境に配慮した有機農業を推進していきます。</p>
HP等	<a href="https://yamato-kumamoto.com/">https://yamato-kumamoto.com/</a>

自治体・団体名	宮崎県綾町
活動概要	<p>宮崎県綾町(人口約7千人)は、「自然との共生」を理念に、国内最大規模の照葉樹林の保護や自然生態系農業（有機農業）の推進など環境保全・循環型のまちづくりに取り組んでいます。農業分野では、全国に先駆け「自然生態系農業の推進に関する条例（1988年）」を制定しており、町独自の認証制度を設け、土づくりや農薬・化学肥料を使わない栽培、農産物ブランド化などを推進。学校給食には約30年前から、町内産有機野菜を活用し、現在使用農産物の約70%を占めています。2023年にはオーガニック給食を推進する条例を全国で初めて制定し、有機JAS認証農産物の積極的な活用など子どもたちの成長を支える取り組みを強化しています。</p>
HP等	<a href="https://aya-organic.com/">https://aya-organic.com/</a>

自治体・団体名	鹿児島県南種子町
活動概要	<p>鹿児島県南種子町（人口約5,300人）は、種子島の南端に位置し、豊かな自然と歴史、そして種子島宇宙センターの最先端科学技術が共存する魅力あふれる町です。2022年に協議会を設立し、関係機関が一体となり環境と調和した有機農業を軸とした地域の活性化、持続可能なまちづくりに取り組んでいます。有機米づくりに向けた試験栽培を開始し、農業者研修会や町有機農業体験圃場での体験イベントなどを開催。町内の学校、保育園においては毎月、みなみたねゆうきっこチャレンジ給食として有機野菜を取り入れた給食を提供しており、環境にやさしい地元の野菜やお米を使った給食の拡大を目指しています。</p>
HP等	<a href="http://www.town.minamitane.kagoshima.jp/">http://www.town.minamitane.kagoshima.jp/</a>

自治体・団体名	一般社団法人 農山漁村文化協会
活動概要	<p>創立1940年、農村文化運動を目的として出版活動と文化事業を展開してきました。『現代農業』『季刊地域』『うかたま』などの雑誌をはじめ、単行本では農業・生活実用書、人文書、全集では『日本の食生活全集』『日本農書全集』『シリーズ田園回帰』など、食・農・環境や地域づくりをテーマとした書籍を刊行しています。『有機給食スタートブック』『ここまでわかった自然栽培』など有機農業・自然農法関連図書も多く、全国7カ所にある支部では「読者のつどい」も開催しています。</p>
HP等	<a href="https://www.ruralnet.or.jp/">https://www.ruralnet.or.jp/</a>

自治体・団体名	越前市有機農業産地づくり推進協議会
活動概要	<p>越前市は、福井県のほぼ中央に位置する人口8万人ほどのまちです。日本コウノトリが最後に生息していた地の一つとして、「コウノトリ呼び戻す農法部会」を中心に、生物多様性の保全を目指し有機農業に取り組んでいます。学校給食については、期間限定ではあるものの、令和5年度は、市内全小中学校に有機米である「コウノトリ呼び戻す農法米」を取り入れました。また、子どもたちには、背景となるコウノトリと当市の歴史、農家さんたちの思いやご苦労、生き物多様性の大切さなどを伝えました。部会の方にとっても、孫世代に食べてもらうことが活動に原動力となっています。今後は、有機野菜に取り組んでもらえるよう支援を拡大していきます。</p>
HP等	<a href="https://www.city.echizen.lg.jp">https://www.city.echizen.lg.jp</a>

自治体・団体名	たじま農業協同組合
活動概要	<p>たじま地域は兵庫県北部の3市2町からなり、日本のブランドビーフのルーツである但馬牛をはじめ、美しい環境で育つお米や野菜など、豊かな自然の恵みが嬉しいまさに食の宝庫です。コウノトリの野生復帰を果たした“SDGs最先端のまち”としても注目されています。なかでもコウノトリ育むお米は、カエルやドジョウなど、コウノトリのエサとなる生き物が育つ環境づくりに取り組み、コウノトリの野生復帰を支える「コウノトリ育む農法」で栽培・収穫されています。農薬や化学肥料に頼らない、できる限り自然のままを追求した安全・安心の田んぼで、生産者が愛情を注いだ人と自然に優しいお米です。現在では、市内の学校給食でも通年使用されています。</p>
HP等	<a href="https://www.ja-tajima.or.jp/">https://www.ja-tajima.or.jp/</a>

自治体・団体名	特定非営利活動法人 熊本県有機農業研究会
活動概要	<p>当会は、有機農業の普及啓発活動を行うことを目的として、<b>1974</b>年に設立され、<b>2000</b>年から特定非営利活動法人として有機認証業務にも携わっています。現在では、有機農業新規就農者支援のための有機農業者養成塾の実施をはじめ、熊本県から委託を受け、熊本型特別栽培農産物（有作くん）認証業務や地下水と土を育む農畜産物等認証業務、みどりの食料システム法に係る実施計画審査業務などを行っています。有機学校給食の取組としては、熊本県内で最も先進的である山都町の実施状況を当会の会員に情報提供するとともに関係機関と連携を図りながら、県全体で学校給食のオーガニック化がより一層進むよう、取り組んでいく予定です。</p>
HP等	<a href="https://www.kumayuken.org/yousei/index.html">https://www.kumayuken.org/yousei/index.html</a>

自治体・団体名	NPO全国有機農業推進協議会
活動概要	<p>NPO全国有機農業推進協議会は有機農産物の販路拡大を目指して「学校給食を有機に」チームを立ち上げ、実行委員会を結成し2022年より毎年フォーラムを開催。全国各地から活動市民・団体が集い成功事例を共有しています。今年は食材のコストと調達のクリアをテーマとして2月12日にオンラインで開催しました。国の補助金を活用して地域の農家と給食センターを結び有機野菜を導入した事例や、市民団体が議員達と地道に時間を掛けて話し合い有機米を導入した事例等をママさん達に語って頂きます。近くで活動している仲間と地域別交流会で繋がりましょう。お申込みは</p> <p><a href="https://organickyushokuforum3cost.peatix.com/">https://organickyushokuforum3cost.peatix.com/</a></p>
HP等	<p><a href="https://www.instagram.com/shiminorganickyushokuforum/">https://www.instagram.com/shiminorganickyushokuforum/</a></p>

自治体・団体名	全日本農民組合連合会
活動概要	<p>全日本農民組合連合会（全日農）は、農民の暮らしや権利を守るために、農民の自主的な組織として<b>1958</b>年に創立しました。米価をはじめとする農畜産物価格の引き上げ運動や、農産物輸入自由化に対する運動などを行ってきました。各地においては有機農業の推進や給食への地場農産物を取り入れる運動も進めています。</p>
HP等	

自治体・団体名	NPO日本有機農業研究会
活動概要	<p>日本有機農業研究会は、1971年、環境破壊を伴わず地力を維持培養しつつ、健康的な食べものを生産する農法を確立しようとして結成された。各地で、地域に根ざした農業者と消費者が協同の精神で協力して有機農業をすすめる「生産者と消費者の提携」（産消提携、「提携」）の実践が行われ、創意工夫に富んだ有機農業技術や畑に合わせた食べ方等が創り出されてきた。地域で学校給食や保育園給食への供給に取り組んでいる会員農家も多い。全国大会、シンポジウム、有機農業市民セミナー（オンライン）、種苗交換会及び会誌『土と健康』誌上での種苗頒布活動等を行っている。</p>
HP等	<a href="https://www.1971joaa.org">https://www.1971joaa.org</a>

自治体・団体名	日本農民組合新潟県連合会
活動概要	<p>新潟県の地域の農民組合12で構成。</p> <p>各地域の課題を県連国の連合を作り解決するべく運動を進めている。</p> <p>農民の収入を増やすべく、米価の値上げ、輸入小麦の危険性や環境に対する負荷などを問題視。</p> <p>地域のフードバンクに米や野菜などの寄付など地域貢献も行う。</p>
HP等	

自治体・団体名	農民運動全国連合会（農民連）
活動概要	<p>農業と農家の経営を守る目的で、農家が自主的につくった団体で、47都道府県に連合会があり、35年の歴史があります。思想・信条・政党支持の自由のもとで、みんなで力を合わせて農業を続けていくための様々なとりくみを進めています。学校給食の問題でも、全国各地で無償化・地場産化・有機化の運動を消費者・市民団体と一緒に進めています。農民連の食品分析センターは、残留農薬や重金属、細菌の検査、遺伝子組み換え作物の分析ができます。農家の生産した農産物の安全性をチェックして消費者にアピールするとともに、輸入農産物の残留農薬を告発して政府を動かし、メディアでもたびたび紹介されています。</p>
HP等	<a href="http://www.nouminren.ne.jp/">http://www.nouminren.ne.jp/</a>

自治体・団体名	常陸農業協同組合
活動概要	<p><b>【JA 常陸の沿革】</b>  平成26年に茨城の県北5JAが、二次合併し誕生した大型JAです。正組合員数：30,584人・准組合員数21,569人／貯金残高：3,244億円／販売高：82億円（米15億 園芸14億 畜産物23億 直売所29億）</p> <p><b>【JA 常陸の経営理念】</b>  農を通じて、真の豊かさ、真の生きがいを地域の人々とともに創出します。</p> <p><b>【JA 常陸の使命（ミッション）】</b>  （ひ）「一人は万人のために、万人は一人のために」の精神に基づき、相互に助け合い、支え合いながら地域社会の発展に貢献します。  （た）多様な農業を守り、消費者に安全・安心な農畜産物・加工品を安定的に供給します。  （ち）地域住民・組合員の一步前を歩き、豊かさと夢のある暮らしを提案します。</p>
HP等	<a href="http://www.nouminren.ne.jp/">http://www.nouminren.ne.jp/</a>

自治体・団体名	あいち生活協同組合
活動概要	<p>あいち生活協同組合は愛知県と静岡県西部85,000世帯を宅配している生協です。オーガニック野菜の栽培や、ネオニコチノイド系農薬フリー、除草剤グリホサートフリーの取り組みなど、生協が掲げる方針を実践する生産者を組合員が訪問し、交流し、一緒に学習し、意見を交わして理解と共感を持って支えられる関係を構築するための取り組みを進めています。</p>
HP等	<a href="https://ichoice-coop.com/aichi-coop/">https://ichoice-coop.com/aichi-coop/</a>

自治体・団体名	株式会社 肥後やまと
活動概要	<p>株式会社肥後やまとは、熊本県山都町にある小さな流通会社です。生産者の出資のもと、新規就農者の育成と有機農産物の流通拡大、地域社会・環境を守るために、平成28年に設立されました。出荷生産者は山都町外も含めると50名を超え、そのうちの半数以上が新規就農者や若手就農者です。山都町の学校給食への納品は、2018年6月より山都町有機農業協議会の前学校給食部会より依頼を受け、納品が始まりました。現在はすべての小・中学校に毎月有機農産物を使用いただいています。また2023年度より、隣町の南阿蘇村や御船町の学校給食センターにも、山都町の有機農産物を学校給食に使用する動きが始まり、現在納品しています。山都町と連携しながら、有機農業、子どもたちの食育を推進しています。</p> <p>(学校給食に納めている有機農産物→じゃがいも・玉ねぎ・人参・里芋・小松菜・ほうれん草・チンゲン菜など年間20品目ほど)</p>
HP等	

自治体・団体名	グリーンコープ生活協同組合連合会（グリーンコープおおさか、グリーンコープふくおか、グリーンコープかごしま）
活動概要	<p>&lt;グリーンコープおおさか&gt;  組合員の要望として、オーガニック給食導入を自治体へ呼びかけていきたいと考えている。第一歩として、堺と岸和田エリアの理事会メンバーで意見交換を行い、すでにオーガニック給食を導入されている自治体に、具体的な聞き取りを行なう準備をすすめている。</p> <p>&lt;グリーンコープふくおか・大牟田支部&gt;  子ども達に食の大切を、大牟田市を元気に、という思いから、2022年度に「学校給食を有機にするっ隊」という活動組合員の夢が生まれた。2023年度は、生産者、調理師、熊本県で活動する団体を招いてのトークライブを3回開催し、回を重ねるごとに参加者も増えている。発足当初より、市議の参加もあり、行政への働きかけなどについて、ともに検討している。「個々人の思いを一つに」を合言葉に活動している。</p> <p>&lt;グリーンコープかごしま&gt;  1. 2022年度より九州農政局による「みどりの食料システム戦略推進鹿児島連絡協議会」に参加し、鹿児島県内の企業・団体とオーガニック野菜の普及について意見交換している。  2. 2022年8月には九州農政局とのつながりで、「学校給食について語る会」と題し、かごしま女子短期大学生生活科・給食管理をされている児玉先生をお呼びして、鹿児島県内の学校給食の様子と、有機食材の現状をお話しいただいた。また、県内で学校給食の有機食材化を進めている「南さつま市産業おこし部農林振興課」の辻主任より、現状や取り組みについて伺った。  3. 2022年から2023年にかけて学校給食用に有機野菜を栽培している鹿児島県加世田市の「自然農法体験学校ありのまま分校」の方との交流と圃場に出向いての援農を行なった。ジャガイモ・玉ねぎの植え付け、収穫。  4. 鹿児島県内の任意団体「オーガニック給食をすすめる会」と連携し、情報の共有やお互いの催しの媒介を行なっている。</p>
HP等	

自治体・団体名	株式会社サンエストライ
活動概要	<p>弊社は埼玉県北足立郡伊奈町に本社を置き、関東を中心に食料品の配送業務を行っている物流会社です。弊社の得意分野は生鮮食品など野菜を中心に冷蔵冷凍食品など徹底した温度管理を行い商品が美味しい状態のままお届けする事を目標とし日々業務を行っている会社です。プライベートでは、会社関係の仲間と共にオーガニックでの野菜の栽培など土作りから取り組んでいます。いろんな野菜を作っては失敗したり、成功したりと、とても収穫が楽しみです。また、一昨年前からは米作りも始めました。米作りもなるべく昔ながらの作り方で、稲刈り後、稲架掛けをして作ったりしています。これからも仲間と共に収穫を楽しみに、オーガニック野菜を作っていきたいと思えます。</p>
HP等	

自治体・団体名	パルシステム生活協同組合連合会
活動概要	<p>パルシステム連合会は、首都圏を中心に1都12県で活動する生協で構成する連合会組織です。主に個別宅配による商品の供給事業や共済・保険事業、福祉・電力事業などを展開しています。パルシステム2030ビジョン『「たべる」「つくる」「ささえあう」ともにいきる地域づくり』では最初に「たべる」を挙げ、食の安全や食料自給率など食をとりまく社会課題に取り組んでいます。また「つくる」では全国401の産直産地と連携して、農業のもつ多面的な価値を見直しながら持続可能な環境保全・資源循環を推進し、食と農をつないで豊かな地域社会づくりを目指しています。</p>
HP等	<a href="https://www.pal.or.jp/">https://www.pal.or.jp/</a>

自治体・団体名	よつ葉生活協同組合
活動概要	<p>NPO民間稲作研究所の有機米田んぼやJAやさと有機栽培部会など生産者と組員員の農業体験交流活動を年間10回行っています。</p> <p>有機農産物、有機食品の取り扱いを進めています。</p>
HP等	<a href="https://yotsubacoop.jp/">https://yotsubacoop.jp/</a>

自治体・団体名	生活クラブ生活協同組合（千葉）
活動概要	<p>生活クラブ生協（千葉）は、千葉県全域に約4万4千人の組合員が加入する生活協同組合です。1976年、手賀沼のせっけん運動がきっかけとなり県内に広がりました。安心できる食の国内生産を持続可能なものに、再生可能エネルギーをもっと身近なものに、だれ一人取り残さない社会を実現するために、意志ある生産者と消費者が手を組み、新しい仕組みづくりに取り組んでいます。地域の多様な人たちが協力して産地を活性化し、持続可能性を追求する、「つながるローカルSDGs」を推進しています。実践の場の一つ、生活クラブ・虹と風のファーム（千葉県八街市）では、ソーラーシェアリングで太陽光発電とユニバーサル農業を実践しています。</p>
HP等	<a href="https://chiba.seikatsuclub.coop/">https://chiba.seikatsuclub.coop/</a>

自治体・団体名	生活クラブ生活協同組合・神奈川
活動概要	<p>生活クラブ生協・神奈川（組合員数約<b>86,000</b>人）は創立<b>53</b>年、食品など組合員の生活に必要な材の共同購入事業を宅配と<b>22</b>の店舗で行っており、福祉・共済事業などにも取り組んでいます。<b>2004</b>年に法人格を持った<b>5</b>つの地域生協を創立し、日々の活動は地域生協が行っています。現在、おおぜいの組合員の参加で「食とエネルギーの自給圏を広げる」「ローカルSDGs運動をすすめる」「たすけあいのネットワークを広げる」「社会的連帯経済の実態づくりを運動としてすすめる」をテーマに活動しています。私たち市民の声を行政に届ける市民政策提案活動も行っており、<b>2023</b>年度は学校給食について学習をすすめ、神奈川県に政策提案を行いました。</p>
HP等	<a href="https://kanagawa.seikatsuclub.coop/">https://kanagawa.seikatsuclub.coop/</a>

自治体・団体名	生活協同組合あいコープみやぎ
活動概要	<p>あいコープみやぎは、宮城県で活動する店舗を持たない共同購入・宅配専門の地域購買生協です。「私たちは協同の力で、人・食・環境を大切に作る持続可能な社会をつくります」を基本理念としています。</p> <p>「食」では、供給高の5割以上を農産・畜産・水産の生鮮食品が占めており、県内・近県の生産者との緊密な提携による地産地消の産直品、組合員参加で開発したPB商品を事業の柱としています。</p> <p>「環境」では、組合員活動で石けん運動をすすめ水環境の保全を図り、「原発ゼロ社会」を目指して暮らしのエネルギーシフトを展開しています。</p> <p>「人」では、組合員全員参加のたすけあいの仕組み「ジョイケアシステム」を通して「人と人がささえあい、安心な地域社会」を目指しています。</p>
HP等	<a href="https://www.mamma.coop/index.html">https://www.mamma.coop/index.html</a>

自治体・団体名	生活協同組合コープ自然派奈良
活動概要	<p>生活協同組合コープ自然派奈良は、2002年に設立し供給高22.7億円・組合員数17,500人（2023年3月末）の奈良県で活動している生協です。「いのち・自然・暮らしを大切にし笑顔いっぱい安心して暮らせる社会をつくり 未来への橋渡しとなるような生協をめざす」という理念のもと、「誰もが有機農産物をつくり、食べることができる社会」の実現に向け活動をしています。学校給食への取り組みは、コープ自然派奈良と生産者団体の奈良県農民連を事務局とする「奈良の学校給食を考える会」を設立し、「おいしい給食・ほんとうの食育」をめざして、保護者・生産者・給食関係者など様々な立場の人たちといっしょに取り組んでいます。</p>
HP等	<a href="https://www.shizenha.net/nara/">https://www.shizenha.net/nara/</a>

自治体・団体名	生活協同組合パルシステム千葉
活動概要	<p>パルシステム千葉は、組合員の皆さんによって構成されている団体です。組合員一人ひとりの願いや想いを受けながら、組織としての一つの意思を持って事業・活動を進めています。産直にこだわり、安全・安心な食材や生活用品をご自宅までお届けする供給事業を中心に、健康・くらし・環境・保障など組合員一人ひとりの「くらし課題解決」に貢献しています。供給事業のほか、店舗事業、夕食宅配事業、家事支援事業、介護事業、共済事業に取り組んでいます。また、活動では「食」「くらし」「子育て」等をテーマにした組合員参加対象の行事のほか、生活困窮者支援や地域団体との連携による社会課題にも取り組んでおります。</p>
HP等	<a href="https://www.palsystem-chiba.coop/">https://www.palsystem-chiba.coop/</a>

自治体・団体名	生活協同組合パルシステム東京
活動概要	<p>私たちパルシステム東京は、『「食べもの」「地球環境」「人」を大切にした「社会」をつくります』を理念に掲げた生活協働組合です。安心で心豊かな食を広げ、「つくり」手との絆を深めた持続可能な生産と消費、身近な「ささえあい」を通して誰もが暮らしやすい地域社会をつくる活動を、組合員が主体となり行っています。</p> <p>安全・安心な食材を届ける宅配事業、「住みなれた地域で根ざした総合サービス」を目指す福祉事業、「たべる」「ふれあう」「あそぶ」を通じて、健やかなからだと豊かな心の育みを目指した保育事業を展開し地域社会に貢献しています。</p>
HP等	<a href="https://www.palsystem-tokyo.coop/">https://www.palsystem-tokyo.coop/</a>

自治体・団体名	生活協同組合連合会アイチョイス
活動概要	<p>アイチョイスグループとして、愛知・岐阜・三重・静岡を事業範囲とし、あいち生協、一宮生協、生協アイチョイス岐阜の3つの生協約<b>130,000</b>世帯の組合員の、安全・あんしんな暮らしをサポートしています。農産物完全産直化（市場野菜の排除）、化学調味料<b>100%</b>排除の実施、メディアによる全商品原材料の情報開示など、食の安全安心の提供を基本に活動しています。</p> <p>国産オーガニックを推進し、農薬削減の取り組み、有機農業を広げる取り組みとして、熊本県山都町の有機の学校<b>ORGANIC SMILE</b>の運営にも関わっています。地元の生産者や行政、地域と協力して、オーガニックビレッジ宣言に向けた取り組みも始めました。</p>
HP等	<a href="https://ichoice-coop.com/">https://ichoice-coop.com/</a>

自治体・団体名	東都生活協同組合
活動概要	<p>東都生協は<b>1973</b>年の設立以来、「産直」「協同」「民主」-いのちとくらしを守るために-を基本理念に、日本の農業を守り、食料自給率の向上を図る課題を掲げ、食と農を基軸にした事業と運動を積み重ねています。生産者との交流・協同を通じ、持続可能な社会に向けて組合員が主体的に食とくらしに向き合い、食卓から日本の農業を応援する行動を進めています。</p> <p><b>2015</b>年には「東都ナチュラル」ブランドを立ち上げ、“続けられるナチュラルライフ”をコンセプトに化学合成農薬・化学肥料を使っていない青果物や有機畜産品、有機食品など品揃えを強化、現在ではブランを普及させるため「<b>TOHTO ORGANIC BASE 東都ナチュラルサポーター制度</b>」を立ち上げ、組合員<b>250</b>名と産地訪問や学習活動を進めています。</p>
HP等	<a href="https://www.tohto-coop.or.jp/index.php">https://www.tohto-coop.or.jp/index.php</a>

自治体・団体名	オーガニック給食マップ
活動概要	<p>全国でオーガニック給食推進に取り組んでいる団体・個人向けにオーガニック給食に関する国内及び世界の情報を発信するWebサイトを2021年に立ち上げ運営をしています。その中で、関係者がリアルに集う場として2022年に第1回全国オーガニック給食フォーラムを開催。事務局として実行委員会をつくって実施しました。すべての子どもたちに一日一食でもより安心な食べ物を、それにより子どもたちの心と身体の健康を守ることと、同時に公共調達が増えることにより有機農業栽培が増えることを目指し、多くの方々とつながって相談しながら進めてきています。</p>
HP等	<a href="https://organic-lunch-map.studio.site/">https://organic-lunch-map.studio.site/</a>

自治体・団体名	学校法人新渡戸文化学園
活動概要	<p>新渡戸文化学園は子ども園から小中高・短大で<b>1300</b>人規模の学校法人です。初代校長の新渡戸稲造博士は国際人としてや教育者であることは有名ですが、もとは農学博士である為、本学では、食や食育に関しても重要な学びの柱となっております。具体例として子ども園や小学校では『にとべごはん』と名付けたほぼ無添加な和食を中心とした給食を提供してします。また、高校にはフードデザインコース、短大には食物栄養学科があり学園全体で食を通して幸せや健康を推進しております。また、全日本食学会との包括連携や、地元中野・杉並区、地場企業との連携を通して色々な食育活動も展開しております。現状ではオーガニックにとべごはんの提供までは行きついておりませんが、子ども達の幸せと健康の為にオーガニック食材の提供を目指しております！</p>
HP等	<a href="https://nitobebunka.ac.jp/">https://nitobebunka.ac.jp/</a>

自治体・団体名	ここから
活動概要	<p>ここから」は長崎県南東部に位置し雲仙普賢岳を望む島原市（人口約4万3千人）で、子供たちに少しでも良い未来を渡したいと願う子育て世代の母親達から始まった小さな有志グループです。農業が盛んな地域ながら有機農業への理解が広がりを見せないこの土地で、まずは食・農の現状理解の促進とオーガニック給食が問題の打開策と成り得ることを提唱し、消費者の意識改革、その先のオーガニック給食実現へ向けての上映会・複数の市議を交えた勉強会・マルシェ等、小規模イベントを開催しています。</p>
HP等	

自治体・団体名	正食協会
活動概要	<p>食を中心にした健康維持、自然回帰、伝統的食文化と環境との調和など、健全社会のあり方まで幅広くテーマを取り上げている機関紙「むすび」を毎月発刊。「食卓から人と地球の健康生活を応援する」をコンセプトに半世紀以上、発信を続けています。「正食クッキングスクール」では日本人が伝統的に食べてきた、玄米と野菜を中心とした食材を使用。食材の美味しさを引き出す調理技術、食材や調味料についての知識、理論、環境問題など幅広く学べます。自身や家族の体調に応じて料理ができ、心身ともに健康的な生活を送れるようになったとの声も多数。味噌や梅干し、漬物などの教室も好評です。</p>
HP等	<a href="https://www.macrobiotic.gr.jp/">https://www.macrobiotic.gr.jp/</a>

自治体・団体名	世田谷区の学校給食を有機無農薬食材にする会
活動概要	<p>東京都世田谷区(人口約94万人)は東京都で一番人口の多い自治体です。公立小中学校全90校で1日5万食の給食を配膳しています。一昨年区議会の予算承認が得られ、令和5年は下半期年6回有機米給食が実施されています。有機米の調達は総量26トンで、精米や配送手段という新しい仕事も増え、区の給食担当や米業者・産地の方々に、必要量の確保に大変ご尽力をいただきました。来年度も同回数実施が決まっています。頻度を増やしたいですが、他の区政諸問題も絡んできますので…。有機米給食実施前に、栄養教諭向けにオーガニック給食の意識調査を実施しましたが、まだまだ消極的な意見が多く、今後も実施し、意識の喚起を計りたいです。</p>
HP等	<p><a href="https://www.facebook.com/%E4%B8%96%E7%94%B0%E8%B0%B7%E5%8C%BA%E3%81%AE%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%B5%A6%E9%A3%9F%E3%82%92%E6%9C%89%E6%A9%9F%E7%84%A1%E8%BE%B2%E8%96%AC%E9%A3%9F%E6%9D%90%E3%81%AB%E3%81%99%E3%82%8B%E4%BC%9A-103889721006352/">https://www.facebook.com/%E4%B8%96%E7%94%B0%E8%B0%B7%E5%8C%BA%E3%81%AE%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%B5%A6%E9%A3%9F%E3%82%92%E6%9C%89%E6%A9%9F%E7%84%A1%E8%BE%B2%E8%96%AC%E9%A3%9F%E6%9D%90%E3%81%AB%E3%81%99%E3%82%8B%E4%BC%9A-103889721006352/</a></p>

自治体・団体名	食べものを変えたいママプロジェクト（食べママ・Moms Across Japan）
活動概要	<p>食べものを変えたいママプロジェクトは、日本で食の安全に関する規制緩和が進む中、<b>2017年</b>に来日した全米母親団体<b>Moms Across America</b>の創設者<b>Zen Honeycutt</b>（ゼン）さんに「今こそ子どもたちの食べものを守るべき！」と強く背中を押されたメンバーでスタートしました。当初は遺伝子操作食品や農薬、添加物などによる影響から子どもたちを守るためにつながる緩やかなネットワークでしたが、<b>2018年</b>からは学校給食に関する取り組みとして新たに「給食変えよう！キャンペーン」を開始し、学習会や交流会の開催、<b>SNS</b>での情報発信を行っています。</p>
HP等	<a href="https://momsacrossjapan.jimdofree.com/">https://momsacrossjapan.jimdofree.com/</a>

自治体・団体名	食べもの通信社
活動概要	<p>月刊『食べもの通信』を発行している出版社です。『食べもの通信』は公害や有害食品の脅威から、子どもたちのいのちと私たちの健康を、そして平和を守りたいと願う栄養士たちの活動からはじまりました。1970年の創刊以来、「心と体と社会の健康を高める食生活」をモットーに読者とともに学び、暮らし方を問い直し、考えあう雑誌です。広告をとらず、読者からの購読料に支えられているからこそ、ほかのメディアでは取り上げられない情報を掲載できる強みがあり、信頼できる情報誌として好評をいただいております。</p>
HP等	<a href="https://tabemonotuushin.co.jp">https://tabemonotuushin.co.jp</a>

自治体・団体名	新潟オーガニック連絡協議会
活動概要	<p>私たちは、2023年3月25日に生産者や消費者、JA、生協、市民、行政など新潟県内のさまざまな人たちの連携し、新潟オーガニック連絡協議会を立ち上げました。</p> <p>有機農業・自然栽培を広げる活動が、農業や林業などの持続的な発展や健全で豊かな食生活のため、未来の子どもたちのためにも、必要と考えます。</p> <p>有機食品・自然栽培食品等の良さを、オーガニックフェスタなどを通じて消費者と共に学びます。学校でのオーガニック給食などの取り組みにより、有機食材の利用を進めることで、子どもたちの健康を守ります。さらに、地球規模の環境問題として地球温暖化や生物多様性の喪失があり、その解決に有機農業・自然栽培を基本とした農業を進めます。</p>
HP等	

自治体・団体名	日本の種子（たね）を守る会
活動概要	<p>戦後の日本の農と食を支えた種子法が<b>2018</b>年に廃止され、また<b>2020</b>年<b>12</b>月には種苗法が改定されました。当会は食料の基本であり生命そのものである種子（特に主要農作物の種子）が営利目的でコントロールされることなく公共財として保全されることを求め、<b>2017</b>年に設立。生産者や消費者という垣根を越え、道府県での種子条例制定などの食と農に関する活動を行っています。特にオーガニック学校給食については、子どもたちの食とともに地域の農業や環境、生物多様性を守り、同時に新たな農と食の自給圏に繋がると考え、<b>2020</b>年以降積極的に取り組んできました。その経緯もあり、協議会の設立当初より協力を続けています。</p>
HP等	<a href="https://www.taneomamorukai.com/">https://www.taneomamorukai.com/</a>

自治体・団体名	畑のがっこう＊愛媛キャンパス
活動概要	<p>愛媛県松山市は瀬戸内海に面し、海と山がたっぷりの豊かな自然の中『こどもにのこしたい未来(今)をつくる、みんなの自然農学校～畑のがっこう～』があります。地球や自然をみんなので分け合える社会をつくろう！で、田んぼ・畑・手仕事などを未来につなげるまなび場、あそび場です。地域のこどもから大人までで推進し、田畑で作った天日干し米や有機野菜を給食で食べています。</p>
HP等	<p><a href="https://hatakenogakkou.localinfo.jp/">https://hatakenogakkou.localinfo.jp/</a>  <a href="https://www.instagram.com/hatakenogakko?igsh=dzIrcGpzYXZicGg3&amp;utm_source=qr">https://www.instagram.com/hatakenogakko?igsh=dzIrcGpzYXZicGg3&amp;utm_source=qr</a></p>

自治体・団体名	ママ♡エンジェルズTEAM2600万 日本オーガニック給食審議会
活動概要	<p>会員者数 3902名／チーム数 348／学校給食に地場産の(オーガニック)食材を取り入れることにより、子ども達と地域のつながりを深め、未来に渡って循環するまちづくりを目指す市民から始まった審議会です。オーガニック給食の実施例を増やすため、全国規模のネットワークで、様々な団体と情報交換しながら、専門調査会議・勉強会・イベントの開催・政策提言活動を行っています。学校給食に関係する、行政・生産者・関連業者・学校・保護者等での連携が最も大切と考え、あえて審議会全体として目指す目標は定めず、各地域の状況に沿って目標を決めています。2021年5月発足。</p>
HP等	<p><a href="https://www.facebook.com/loveschoollunchjapan/">https://www.facebook.com/loveschoollunchjapan/</a> <a href="https://mama-angels.com/">https://mama-angels.com/</a> <a href="https://o-kyusyoku.hp.peraichi.com/">https://o-kyusyoku.hp.peraichi.com/</a></p>

自治体・団体名	みしまオーガニック給食プロジェクト
活動概要	<p>みしまオーガニック給食プロジェクトは、農水省が策定した「みどりの食料システム戦略」をきっかけに、静岡県三島市のママ5人が集まり令和4年3月に誕生しました。子どもたちの健やかな成長に寄与する食の安全と地産地消に関する食育活動、および環境負荷が少なく持続可能な農業の発展に関する活動等も行っています。「いただきます2」や「希望の給食」の上映会を通じ、令和6年1月現在、会員が124人となりました。親子味噌づくり体験や要望活動、援農のかたわら、令和4・5年で、地域の方々のご支援を頂き米づくりもさせていただきました。育苗から一連の作業を通し、食べ物を作ることの大変さ、尊さを親子で経験させていただいています。令和6年は、土壌学も学んで参ります。オーガニックとは、【全ての命を幸せする仕組み】であると、たくさんの方々と共に共有し、実現に向け着実に進んで参ります。</p>
HP等	<a href="https://mishimaogaqpro.wixsite.com/index">https://mishimaogaqpro.wixsite.com/index</a>